

秋から冬にかけて、意欲的に踏みだそう！

各地の平和の会の奮闘が待たれている！

茨城県平和委員会の第3回常任理事会が、10月29日に水戸市国際交流センターで開催され、秋のとりくみの交流と、今後のとりくみについて、討議を深めました。



情勢

米国と財界の要請だった小泉構造改革の矛盾が爆発、政治の転換を求める国民の怒りで、高校授業料無償化や子ども手当の拡充、後期高齢者医療制度廃止、労働者派遣法抜本改正、農業の価格保障など、反構造改革的な政策を打ち出した民主党が政権を取りました。(2007年)

鳩山政権は国民の期待に応える姿勢を示そうとして、保守政治の枠を部分的に逸脱した結果、財界・マスコミの反鳩山キャンペーンを受け、首相をやめざるをえなくなりました。

後を継いだ菅政権は、米国と財界の期待に沿い、方向を構造改革と日米安保遵守に転換した結果、国民の期待に反したため参院選で敗北しました。(2010年)しかしその後も財界の要請を忠実に受け入れ、法人(大企業)税減税を強行し、TPP参加、消費税増税打ち出したが、震災復興の遅れ等による国民の信頼を失い、米国と財界が要請する政策の実現可能性がなくなり、やめさせられました。(2011年)

野田政権は、米国と財界が菅政権を通して実行しようとした、①「税と社会保障の一体改革」という消費税の大幅引き上げ、年金と医療費の切り下げ、同時に法人(大企業)税の引き下げ、②TPP参加と構造改革型の復興、③原発を維持し再稼働を進める、④沖縄普天間基地の辺野古移転等の日米懸案事項を解決し、自衛隊の海外派兵や武器輸出三原則の見直し等の「新防衛計画の大綱」等を、早期実行をねらう内閣です。

野田政権が実施しようとする、これらの政策は、自民党以上に自民党的な政策であり、背景に日米安保条約があります。野田政権は、米国と財界に忠実な政策の早期実行を要請された内閣です。それは、自民党を政権から追い落とした「国民の願いに反する政策強行内閣」と言ってよく、従って国民の反対運動も大きくなります。今後、自民党とむすんで、短期間のうちに実施を強行する可能性が高いと考えられます。

私たち平和委員会は、平和と生活を破壊するこれらの政策の実行を阻止するため、全国の仲間と連帯した草の根運動をさらに強化することが求められている。

秋のとりくみの経験交流と11月中のとりくみ

1. 「東海第二原発を廃炉に」のとりくみ
 - ・日本原電は定期点検終了を、来年8月上旬に延長した。
 - ◆東海村全域に「東海第二原発を廃炉に」のチラシを配布するとりくみ 村内全所帯=14000軒に新聞折込等を行なう。→現地平和委員会と県平和委員会が連携し、財政的な支援を含めてとりくむ。
 - (1) 学習会を網の目に進める。
 - 中心に「東海第二原発はいらない」を据える。
 - (2) チラシ配布・街宣活動を11月中にやりきる。
 - (3) 「原発問題のパネル展」を開催する。
 - (4) 署名の1次締め切りは11月20日
 - 署名の提出 = 12月上旬
 - (5) 脱原発 県民集会(「森住卓氏」講演)のとりくみ
 - ・11/20(日) 午後1時~
 - 水戸・青少年会館大会議室(最大300名収容)
 - ・各平和の会・平和委員会で200名の参加者確保をやりきる。他団体から100名
 - (6) 平和広告は、「平和宣伝活動」・「署名」・「広告賛同者の獲得」・「10.20県民集会」と一体でとりくむ。賛同者目標 個人=1200名以上 団体=130団体以上
2. 仲間づくり 10月は5名確認。

年末・年初のとりくみ

1. 仲間づくりは、拡大推進者が中心になる。
2. 東海第二原発廃炉の、新たなとりくみを進める
 - 自治体の議会から、県や国へ「東海原発を廃炉とする意見書」採択要請行動を組織
 - 3月~5月、東海第二原発の廃炉をめざす、大規模な県民集会の開催に尽力する。3月11日・東日本大震災1周年、5月3日・「憲法フェスティバル」(予)
3. ワイン販売
4. 「県平和委員会20周年記念事業」のとりくみ

ワインを飲んで平和を語ろう！

今年も平和ワインを

宜しく願います！

詳しくは「平和ワイン」チラシをご覧ください。



歓迎！新入会員のみなさんです。

宜しく願います。

- 塚本 修一 さん(水戸市)
- 鈴木 登美子 さん(鹿嶋市)
- 林 義雄 さん(石岡市)
- 岡沢 清 さん(美浦村)
- 竹田 一男 さん(美浦村)
- 高木 誠 さん(水戸市)

※水戸市の高木誠(せい)さんに、入会に際しての一言を書いて頂きました。



『健やかに生きる』

私ども老いの坂を昇りつめたものの、その悩みは深遠なものです。消え去らんとする燈火に直面して、単に老兵は去るのみの心境で過ごせるかどうか。この悩みを少しでも遠ざける方策を探求し、実行に移す事が標題のとおりである。世事にくよくよせず、心身共によく動き頑張りたいと思う。人生に卒業はない。

各平和の会(平和委員会)のみなさん一人ひとりの力で、月5名の仲間づくりを実現いたしましょう。

平和新聞

2011年11月5日(土曜日)

1971号(毎月5,15,25日発行)

1950年12月16日第三種郵便物許可 発行 日本平和委員会
1部140円 月額400円 〒105-0014 東京都港区芝1-4-9 平和会館
(郵送料月額120円) 電話03(3451)6377 FAX03(3451)6277

平和かわら版 平和新聞茨城版

No. 609

2011.11/5

発行：茨城県平和委員会 〒310-0912 水戸市見川5-127-281
Tel/Fax 029-251-2806 E-mail ibahei@amber.plala.or.jp

『ふる里を返せ！』の声がフクシマに響いて

なくせ！原発安心して住み続けられる福島を！ 10・30大集会inふくしま

「福島で生きていきたい」「ふるさとを返して」など、平和なふるさとでくらしたいという切実な思いをつづったゼッケンを身につけた福島県内の参加者をはじめ、47都道府県すべてから駆けつけました。

除染徹底、被害賠償を要求

東京電力福島第1原発の事故を受け、国や東電に除染徹底やあらゆる被害の賠償などを求める1万人規模（主催者発表）の集会が30日、福島市内で行われた。福島県浪江町の馬場町長があいさつし、「一日も早く除染をし、3月11日以前の元の生活に戻してほしい」と訴えた。

浪江町は原発に近く、国の警戒区域や計画的避難区域に指定されたことで全町民約2万1000人が故郷を追われた。町長が「福島県内に1万4000人、全国に7000人が避難している。心が折れないように、皆さんの気持ちを大切にしながら生き抜いていきたい」と訴えると、会場から大きな拍手が起きた。

～原発事故受け、 一万人余が福島に集結～

この集会は「なくせ！ 原発安心して住み続けられる福島を！ 10・30大集会inふくしま」で、反原発派の市民グループが主催した。



【福島県民の叫び！】

茨城からも連帯の参加！

茨城は、多くバスを仕立てて参加しました。平和の会・平和委員会の関係では、日立（19名）、大宮（15名）、東海・那珂（25名）、笠西（33名）、常陸大宮（22名）、また公共交通で参加したのは、美和・緒川（10名）、北茨城（8名）の合計132名でした。



【茨城県平和委員会旗も風にひらめく！】

会場は身動き出来ないほどすし詰め状態で、会場を歩いて茨城の仲間を見つけることが不可能な状況でした。上記は情報が入った範囲ですので、増えることが予想されます。

また、茨城労連から議長・事務局長をはじめ5名、民医連はバスで36名、新婦人・農民連・民商は合同で大型バスを出し、補助イスまで使い、48名も参加しています。その他、個人で参加した人も数多くいたようでした。

当日は曇り空でしたが、集会するには最適な状況で、お互いに元気をもらった集会でした。福島産のリンゴや梨も格安で販売され、大きくて甘かったこともあって、終了間際には全て売り切れました。

主催者の用意したチラシは1万枚でしたが、途中で全部なくなり、参加者が1万人を大きく越えたことはわかりましたが、正確な人数は把握出来なかったようです。参加者からの募金が107万6000円余ありました。

【シリーズ】 わが街 わが会員

水戸市 / 川崎 敏明* さん（水戸市平和委員会）



『3・11、春を絶つ』

人が生を受けて社会の中にいることに、今回の原発事故からしみじみと考えさせられる。

むつましくまともに生きている人達に襲いかかった放射能に、今その除去になすすべもなくいる。夢中で駆け抜けてきた自分の足跡を振り返れば、こんなやせない時はない。

なぜ人の手によって開発された技術の結晶がその繁栄や人の幸せを狂わせたのだろう。平和や楽しい毎日を何の不思議もなく享受していたのに、国や利潤を追求する集団が他人様の様に今回の事故を扱っていないか。誰に不満をぶつけたらいいのかと、フクシマの人たちが震える拳を押し殺している。

だが、黙ってはいない。負けてはいない。私たちは、全国の志を同じくした人達と腕を組み、要求する。完全に春を絶たれた世界に誇る日本の緑の大地をもとに戻せと！

意気高く！年金者一揆

10月13日は、水戸市の県立青少年会館で、10月14日には東京の明治公園で意気高く年金者一揆集会が行われました。



前号の訂正

前回（平和かわら版No.608）の「わが街・わが会員」に登場して頂いた「笠間市 稲田敏之さん」の文中で、編集上の不手際により下記の誤記が有りました。お詫びし、訂正致します。

（誤）水蒸気爆発 → （正）原発の爆発(水素爆発)

（誤）世界の10%が集中 → （正）世界の地震発生10%が集中